

東大和市立図書館システム機能仕様書兼回答書

図書館システムの機能仕様について下記要領で記入すること。

実現可否	回答基準
◎	標準仕様で実現可能もしくはオプション機能ではあるが見積金額に含む
○	カスタマイズして要望機能に対応もしくは要望機能を実現可能な代替提案
△	一部機能に制限あり
×	対応不可もしくはオプション機能はあるが見積に含まない

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項
1 基本仕様				
1	サービス提供範囲	下記サービスレベルについて遵守すること。 カウンター業務 貸出・返却/資料検索/利用者登録/予約・リクエスト/相互貸借 資料管理業務 書誌データ管理/ローカルデータ管理/雑誌管理 発注受入管理 利用者管理 帳票 OPAC (利用者公開端末) Web蔵書検索		
2	書誌管理方式	書誌階層の考え方を導入し、図書館内に所蔵している全ての資料に対し、書誌単位でデータベースを構築できること。		
3		データについては、可変長、可変項目であること。(例えば、タイトルの読みは、複数入力ができること。また、本タイトル・副タイトル等の繰り返し入力が行えること等)		
4		AV資料も集合・物理・構成書誌として管理できること。		
5		集合書誌と物理書誌との結びつけは、書誌登録後でも可能であること。(物理書誌と構成書誌も同様に行えること。)		
6		操作性	図書館システム操作者のユーザビリティに配慮し、操作方法が覚えやすく、効率的に操作ができる、視覚的に分かり易いシステムであること。	
7		キーボードのみで簡単に操作できること。また、マウスを用いても操作ができること。		
8		キーボードおよびファンクションキーのワンタッチ操作により業務の切り替えができること。		
9		使用頻度の高い処理は、キーボードのワンタッチ操作により、直接切替が行えること。コードデータはヘルプ画面を開いて参照や入力ができること。		
10		データ入力時には必須項目がわかるように表示すること。		
11		フォーカスが当たっている入力エリアは背景色を変えて視覚的にわかりやすいこと。		
12		エラー項目は色を変えて表示できること。		
13		入力項目属性に応じ、漢字IMEの自動立ち上げができること。		
14		検索結果一覧の表示は、画面スクロールにより全件を表示できること。		
15		検索結果一覧で、資料状態、所蔵、発注が容易に識別できること。		
16		資料情報の一覧にて資料形態を容易に識別できること。		
17		他の画面に遷移可能な項目の表示を、容易に識別できること。		
18		資料番号、利用者番号については番号入力時点でチェックデジットのチェックを行えること。		
19		ログインユーザグループを作成できること。また、ログインユーザグループごとに貸出、返却、検索、利用者管理、資料管理、運用管理、典拠管理業務の使用可否制限が設定できること。本設定は職員が随時変更できること。		
20		図書に印字されているISBNバーコードをバーコードリーダーで読み取り検索ができること。10桁、13桁の両方のISBNに対応可能なこと。		
21		雑誌に印字されているJANコードをバーコードリーダーで読み取り検索ができること。		
22	画面	業務グループごとによく使用する機能をトップ画面に設定でき、担当業務に合ったシステムメニューを設定できること。		
23		全画面に処理端末IDが表示できること。		
24	システムの運用	各画面から、メニュー画面に遷移することなくキーボードのワンタッチ操作で直接他の業務に遷移できること。		
25		運用中にサービス障害が発生した場合に備え、クライアント端末に貸出返却情報を保存する機能があること。(オフライン機能)		
26		システムの起動、停止、日次処理、バックアップ等については、自動運転が可能なシステムであること。		
27	レシート印刷	貸出期限票、予約者連絡票、書誌資料情報等のレシートを任意の専用プリンタにより出力できること。		
28	画面印刷・一覧リスト印刷・ファイル出力	オンライン業務のタイトル一覧等、全ての一覧表示画面において該当件数一括して一覧リストが印刷できること。		
29		オンライン業務の各種一覧画面の印刷内容をファイル出力可能であること。		
30	セキュリティ対策	図書館システムとしてのセキュリティを考慮し、業務システムへのログイン機能、利用者情報へのアクセスログ取得機能があること。		
31	レファレンス件数入力	レファレンスの回答方式別(電話・FAX等)の回数と種類別コピー枚数および催し物別の参加人数を常時入力できること。		

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項	
2 貸出業務					
1	システムの運用	貸出条件について、貸出区分毎に以下の条件を設定可能であること。 ・貸出冊数チェック ・未登録資料チェック ・本人貸出中チェック ・返却日算出 ・延長回数 ・予約有資料 ・利用者有効期限チェック（利用者区分毎に可能であること。）			
2		資料種別（図書・雑誌・AV資料等）毎、館毎、利用者毎の貸出日数、延滞日数、延滞回数、延滞警告回数、種別毎の貸出点数、合計貸出点数が設定できること。			
3	貸出業務	個人・団体・相互等、いずれの貸出処理も行えること。			
4	バーコード処理	利用者番号と資料番号のバーコードラベルをバーコードリーダーで読み取ることにより、貸出処理が行えること。			
5	利用者の利用状態の表示	貸出状況や予約、延滞、紛失の状態を画面の切り替えなしで表示できること。			
6		貸出画面内で、現在貸出中、予約中の資料を確認できること。			
7		貸出中の資料、予約中の資料について、一覧画面を表示しなくても資料の有無が確認できること。			
8		資料にメモがついている場合、その内容が表示できること。また、表示しなくてもメモの有無が確認できること。			
9	利用者の連絡メモ表示	利用者への連絡事項を貸出時に表示することができること。			
10		貸出画面に連絡メモ、注記を表示、更新可能であること。			
11	利用者へのメッセージ内容の一括確認	利用者へのメッセージ内容（予約受取待ち情報、利用者への連絡メモなど各種確認事項）は、メッセージウィンドウを閉じた後も、メッセージを再度確認できること。			
12	利用者情報の照会・更新	貸出画面にて利用者番号を入力した状態から利用者管理へ画面遷移しその利用者の情報を照会・更新することができること。			
13	貸出情報	貸出一覧表示については、資料番号、資料区分、取扱区分、タイトル、返却予定日、督促、予約、資料状態を表示できること。			
14	利用者チェック	有効期限、貸出延滞、自館の予約受取待ち情報、連絡メモ有無、利用者状態（貸出停止、不明等）チェックを行い、メッセージで知らせることができること。			
15	資料のチェック	予約、除籍、禁帯、未返却、メモ有無、未登録のチェックを行い、一覧上に表示するものとし、メッセージでも知らせることができること。			
16	返却日設定	図書館カレンダーの休館日を館ごとに設定することで返却予定日を管理し、また貸出画面での随時変更も可能なこと。			
17	貸出・予約状況の確認	貸出・予約している利用者の場合、貸出・予約資料が照会ででき、延滞資料や予約受取待ちの確認ができること。			
18		貸出冊数、予約冊数が画面上に表示され確認できること。			
19		予約情報について、以下の情報が確認可能なこと。 発注中（発注中の書誌への予約）、予約返却待、予約回送中、予約受取待、書架（書架書誌への予約）、回送依頼中（回送を依頼したもの）			
20		貸出情報に請求記号がフル桁表示できること。			
21		貸出予約照会画面中のタイトルへ雑誌の場合は巻号、通巻、年月日号、特別区分を追加表示し、それ以外の場合は責任表示が表示できること。			
22		貸出情報に、貸出場所、延長回数を表示できること。			
23		特定の期間返却されない資料を、利用者と関連付けしたまま「除籍」状態にできること。また、同時に利用者の状態を「貸出停止」にできること。			
24		チェック条件の選択	貸出冊数制限、同一利用者への貸出、未登録資料の貸出についてはチェックの有無を設定できること。		
25		貸出延長	貸出画面から貸出延長画面を表示し、当該利用者へ貸出中の資料について選択し、延長処理が可能なこと。		
26			貸出業務からも、利用者業務からも貸出延長処理が行えること。		
27	延長日数や延長回数は予め設定できること。				
28	延長の際、その書誌の予約の有無をチェックできること。				
29	延長対象外の資料を設定できること。				
30	延長日数の加算の基準を、延長処理日、返却予定日から選択できること。				
31	延長回数の表示が行えること。				
32	貸出期限票の印刷	カウンター端末からは、通常のプリンタと貸出期限票を印刷するレシートプリンタを自動的に切替えて出力できること。			
33		貸出処理後、利用者番号・貸出資料・返却予定日・自由文等（端末毎に任意に設定可能）をレシートプリンタにより印刷できること。			
34		団体利用者が貸出を行った際の貸出期限票をレシートではなくA4サイズで出力することができること。			

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項
35	貸出ペナルティ機能	返却予定日を大幅に過ぎている利用者を貸出停止とする処理ができること。		
36	紛失登録管理	紛失登録時から、任意の貸出状態を選択し、紛失日、メモを管理し、紛失資料の管理を行うことができること。		
37	警告メッセージ時の処理選択	貸出処理において、警告メッセージが表示された時、「OK」と「キャンセル」をどちらにするか、初期設定可能であること。		
38	エラー音の追加	メッセージおよびエラー音によりエラー時を容易に認識することができること。		
3 返却業務				
1	返却処理	返却時に利用者の貸出・予約状況を確認できること。		
2		貸出残数を表示できること。		
3	バーコード処理	資料番号のバーコードラベルをバーコードリーダーで読取ることにより、返却処理ができること。		
4	資料情報の表示	資料番号入力時に、タイトル、資料状態、予約者番号、取扱区分、配架区分等を表示できること。		
5		返却資料を一覧から選択して詳細情報照会画面へ遷移可能なこと。また隠れたタイトルを表示できること。		
6		資料にメモがついている場合、その内容が表示できること。また、表示しなくてもメモの有無が確認できるようなしきりがあること。		
7	資料のチェック	予約資料についてチェックでき、予約者番号、予約館名、受取館名が表示できること。		
8		禁帯出・新着資料など、チェックを設定しておいた取扱区分コードの資料は、返却時にチェックしてメッセージを表示できること。		
9	利用者への連絡メモ表示	資料を返却した利用者連絡メモがある場合、メッセージを表示できること。		
10	資料メモの登録	資料メモがついている資料を返却した場合、メッセージを表示することができること。		
11	予約連絡票の印刷	予約資料の返却時、予約連絡票を印刷できること。		
12		現在予約者数を出力することができること。		
13		予約連絡票の再出力ができること。		
14	借用資料の返却	借用貸出の資料が返却された時にチェックできること。		
15	配架コードチェック	特定の配架コードに対しチェックが行え、配架コードを表示することができること。		
16	他館資料返却時の資料状態コード変更	他館資料返却時、資料状態コードを「他館回送中」に変更できること。		
17	資料メモ票レシート出力	資料メモの内容をレシート出力可能なこと。		
4 検索業務				
1	検索処理時間	複数ユーザの同時検索要求に対し、ストレスを感じさせない時間で応答が可能なこと。 ・想定ユーザ数：最大60ユーザ ・検索内容：5文字程度の1語（キーワード）検索		
2	検索キーの種類	資料名・著者名・出版者・ISBN・分類・MARC番号・内容細目のMARCデータを有効に活用した検索及び、タイトルコード、請求記号・資料番号を検索項目にできること。		
3		漢字、カナ読みともに、同一エリアに入力して検索できること。各キー項目へのカーソルの位置付けが、ワンタッチ操作でできること。		
4	フリーキーワード検索	本タイトル、副タイトル、巻号タイトル、その他タイトル、著者名、件名、出版者、巻次、シリーズ、全集、内容タイトル、内容責任表示、巻号通巻、年月日号、分類番号、刊年、時間（分）、帯情報等についてAND検索を行えること。（検索キーが上記のいずれかに該当時、ヒットとなる。）		
5	著者名等の参照機能	著者名、出版者については、既にデータベースに登録されている著者、出版者の一覧を表示し（辞書機能）そこから検索キーを選択できること。		
6	資料種別の指定	図書、雑誌、視聴覚等の検索対象を指定した検索と全資料を対象とした検索を選択できること。		
7		資料の種類（一般書、児童書、等）を複数指定した検索ができること。		
8	検索機能	以下の検索機能が活用できること。 ・論理検索（AND、OR、NOT） ・前方一致／完全一致／中間一致（分かち項目）／後方一致 ・典拠参照あり／なし検索（責任表示、件名、出版者）		
9		検索を途中で中断できること。		
10		書誌階層を指定して検索ができること。		
11		各種検索キーをカナ・漢字・アルファベットの全半角・大文字小文字両方で同じ検索が行えること。（同音異語でも検索でき、清音規則は任意に設定できること。）		

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項
12	未所蔵、所蔵情報の検索	新刊（新刊MARC情報）、所蔵情報、発注情報、選定情報を検索できること。		
13		新刊、所蔵、選定、発注をそれぞれ指定した検索が行える他、組み合わせた検索が行えること。		
14	資料状態での絞り込み	資料状態を指定した絞り込み検索ができること。		
15	初期値設定	AND検索が可能なこと。		
16	NOT検索	タイトル、責任表示、件名、シリーズ、全集、注記、内容タイトル、内容責任表示、出版社、所蔵館コードについてNOT検索が可能なこと。		
17	分館対応	所蔵館について任意の複数館を指定した検索が可能なこと。		
18		検索結果一覧表示で指定した複数館毎の所蔵資料の状態を表示可能であること。		
19	ISBNバーコードを用いた検索	図書に印字されているISBNバーコードをバーコードリーダーで読み取り検索ができること。10桁、13桁の両方のISBNに対応可能なこと。		
20	雑誌巻号一覧表示	検索の結果、雑誌の1タイトル毎の巻号情報を表示できること。		
21		検索した各巻号の内容を表示できること。		
22	検索結果一覧表示・印刷・ファイル出力	検索でヒットした著者名やタイトルを一覧表示（資料形態、タイトル、著者名、年月日号、出版者、出版年、発注状況等）できること。		
23		検索結果全体の一覧印刷、ファイル出力が可能であること。		
24		検索結果の一覧表示画面で、一件2行表示ができること。		
25		所蔵館や資料状態を選択して絞り込みが可能なこと。		
26		所蔵の無いタイトル部にグレー表示のアイコンを配置するなどして、一覧画面上で所蔵の有無がわかりやすく確認できること。		
27		項目ごとの並び替え（ソート）ができること。		
28		列幅を任意に変更できること。		
29	検索結果詳細一覧表示	一覧上で、所蔵状態、貸出可否が確認可能であること。		
30		タイトル一覧画面で貸出可能冊数、所蔵情報を表示する館を選択できること。		
31		貸出可能冊数の表示において全館および自館のどちらか選択可能なこと。		
32		貸出可能冊数に含まない取扱区分（禁帯出等）を任意に設定可能なこと。		
33		単行本か文庫本か等の判断できるよう大きさを表示することが可能なこと。		
34		タイトル詳細一覧に予約冊数が表示できること。		
35		資料状態による絞り込みが可能なこと。		
36	書誌・資料照会表示	書誌情報（資料形態、分類番号、タイトル、著者名、出版者、出版年、書誌番号、上位書誌番号）と合わせて資料照会（資料番号、発注番号、所蔵館、請求記号、配架、資料区分、資料状態、取扱区分、付録、処理日、処理館、回送館、利用者番号）が確認できること。		
37		貸出資料、予約資料について、詳細な利用者情報の表示ができること。		
38	利用者照会への遷移	書誌資料照会画面から、貸出資料、予約受取待資料を選択して、利用者の照会が行えること。		
39	書誌資料情報レシート出力	書誌資料情報レシートを出力可能なこと。		
40	貸出回数表示画面	貸出回数累計と貸出回数の5年分が表示できること。		
41	登録・編集機能	全ての資料に対し、書誌情報の編集、複写新規、資料情報の登録、発注、編集が可能なこと。		
42	検索キー入力履歴の表示	検索キーの入力履歴を表示し、再度検索を行う時に、引用できること。		
43	全文検索	全文検索が可能なこと。		
44	同義語検索	同義語での検索が行えること。		
45		自由に編集できる同義語辞書を持ち、検索時に登録した同義語でも検索できること。		
5 予約業務				
1	予約処理	複本を含めて、予約できること。		
2		自館の資料に限定、または任意の複数館の資料への予約ができること。		
3		予約をかけられる資料を制限できること。資料に取扱区分を付与し、予約対象外の取扱区分を設定できること。（取扱区分の例：新着資料、禁帯出資料、貴重書、等）		
4		1利用者に対する予約冊数の上限値を設定できること。上限値は利用者区分毎、資料種別毎に設定可能なこと。		
5		予約処理の画面から利用者検索が行え、検索後その利用者番号を引き継いで予約処理を行えること。		
6		予約者の利用者情報を照会できること。		
7		予約一覧の印刷が可能であること。		

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項
8		予約時にメモの入力ができ予約連絡票にその内容を印刷できること。予約一覧でメモの有無を確認可能なこと。		
9		資料番号を指定して予約できること。		
10	予約者管理	時間単位で先着順に予約者の優先順位を管理できること。		
11		貸出・返却処理等と連動し、各処理で予約チェックをして、メッセージで通知できること。		
12	予約順序変更	予約の順序を、予約状態に関わらず変更できること。ただし、受取待ちの利用者を返却待ちに変更する場合には、詳細なメッセージを表示し、注意を喚起できること。		
13	予約有効期限(受取期限)	予約有効期限(受取期限)を設定できること。自動付与、手動変更が可能なこと。		
14		予約連絡をした時、受取期限日を画面上で設定できること。		
15	資料状態の確認	予約画面で、所蔵冊数や発注冊数、予約状況を確認できること。		
16	予約解除	貸出業務、資料の検索業務、利用者業務のいずれからでも予約情報を解除できること。		
17		予約受取待ちの予約解除を行った場合、他に返却待ち利用者が存在する場合は、その旨をメッセージ出力すること。		
18	重複チェック	同一書誌に同一利用者が予約をかけられるか否かを選択できること。		
19		本人が借りている資料と同一書誌の資料に予約を行う際、確認メッセージを表示できること。また、禁止する設定も可能なこと。		
20		予約対象館に貸出可能な資料が存在する場合、確認メッセージを表示できること。		
21	予約本到着メールの配信	利用者情報にメールアドレスを登録している利用者に対して、予約本到着メールを送付することができること。		
22	予約冊数上限値の設定方法追加	予約の冊数上限を検索区分(図書、雑誌、AV等)、資料種別ごとに設定できること。		
23	グループ、セット予約	グループ予約、セット予約を行うことができること。		
24	予約情報の回送先館の変更	予約受取待(割り当て済)、予約回送中、予約返却待ちの予約情報について、回送先館を変更できること。		
25	予約処理場所表示	どこで予約処理を行ったのかわかるよう、予約処理場所を登録、表示できること。		
6 資料管理業務				
1	書誌管理	図書、雑誌、AV、地域(郷土)資料など、各書誌情報の管理が行えること。		
2	内容情報(構成書誌)の登録	内容情報の登録ができること。(タイトル、著者名、分類番号、件名、ページ数等)		
3		内容一覧が表示できること。		
4		内容細目データの登録と更新処理を行えること。		
5		市販の内容細目ファイルのデータを登録できること。		
6		AV資料の場合、録音時間を管理できること。		
7		内容書誌の並べ替えができること。		
8		可変長、可変項目のデータ管理	可変長、可変項目が管理できるデータベースであること。特に、本、副タイトルおよびヨミ、著者名、分類番号、件名等についての繰り返し入力に制限がないこと。	
9	コード等の入力時の参照機能	著者名、出版社、シリーズ、全集、分類番号、資料区分、配架区分、寄贈社番号、資料状態、資料形態、所蔵館については、入力時に既にデータベースに登録されている著者、出版社、シリーズ、全集、分類番号、資料区分、配架区分、寄贈社番号、資料状態、資料形態、所蔵館の一覧を表示し(辞書機能)そこから選択できること。		
10	検索キー設定(オプション)	表記を自動的に読み振りし、キーとして登録できること。		
11		表記を自動的に分ち書きし、キーとして登録できること。		
12		自動的に分ち書きされた内容の修正が行えること。		
13	業務メモ、表示用メモ、その他メモの更新日更新場所の表示	資料メモ等の最終更新場所、最終更新日を記録でき画面で確認することができること。		
14	雑誌巻次一覧のソート機能	巻、号、通巻、年月日号等をソートすることができること。		
15	MARCへの対応	現在使用しているMARCデータ(OPL)を取り込めること。		
16		複数社のMARCに対応していること。		
17		データベースへの登録は、必要に応じて図書館職員が行えること。		
18		登録時に、既登録データに対する上書きを行うか否かを指定可能であること。		
19	新刊MARCの登録/削除	各種新刊MARCの登録ができること。		
20		不要になった新刊MARCについては、必要に応じて削除処理が行えること。		
21	MARCの授受	インターネット等を介して、MARC会社からMARCデータを授受できること。		
22	書誌情報、資料情報の訂正	書誌のコピーができること。また、書誌を複写する際に、ISBN、注記情報、内容情報、出版年を複写するか否かを選択ができること。		

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項
23		雑誌巻号所蔵情報を入力する場合に、所蔵が存在しない場合も登録できること。		
24	書誌情報の統合	複数書誌を1書誌に統合できること。		
25		その時に被統合書誌に付随している資料情報もすべて統合先に統合すること。また、発注情報も統合できること。		
26		所蔵のない新刊MARCを統合元として統合できること。		
27	複本解除	複本を解除できること。		
28	資料情報付け替え	別の書誌への資料情報の付け替えができること。		
29	書誌情報の訂正、予約	発注後、受入時、受入後のいずれの段階でも書誌情報の訂正、予約が行えること。		
30	相互貸借書誌資料登録	相互貸借用の書誌作成と資料登録を行えること。		
31	請求記号の自動生成	一般図書、洋書、地域資料、逐次刊行物の請求記号については、請求記号が自動生成されること。		
32	一括資料状態・情報変更	資料の館区分、配架区分、資料区分、取扱区分、請求記号等の変更をオンライン上で一括して処理できること。		
33		資料の状態を除籍、準備中、書架、修理中に一括して行うことができ、その際に除籍理由と複本が無いもの（一冊本）をチェックできること。		
34		一括資料状態・情報変更をバッチ処理（PC・ハンディターミナル）・オンライン処理の双方で行えること。		
35	期限付き別置機能	一定期間だけ配架を変更する期限付別置が行えること。設定した期間を経過すると、本来の配架区分に変更されること。		
36	ハンディターミナルによる蔵書管理	データの資料状態を一括して変更できること。		
37		データの資料情報を館区分、配架区分、取扱区分、資料区分について一括変更できること。		
38	蔵書点検	バッチ業務用のハンディターミナルおよびノートPCを用いて蔵書点検処理を行えること。		
39		照合処理の結果を用いて以下の処理を行えること。 ・照合処理結果の一覧リスト出力。 ・データベースへの蔵書点検結果の反映。 ・点検で見つかった未返却資料の返却処理。 ・継続的に不明となった資料の一括除籍。 ・紛失状態の資料の一括除籍。		
40		オンライン処理にて蔵書点検を行うことができること。		
41		一回の蔵書点検でオンライン処理とバッチ処理（PC・ハンディターミナル）を併用できること。		
42	資料／書誌情報の削除	不要となった資料情報は特定の条件を指定して削除可能であること。		
43		不要となった書誌情報は特定の条件を指定して削除可能であること。		
44	督促管理	返却予定日を過ぎている利用者に対し、督促管理が行えること。		
45		返却予定日や最終督促日を指定し、一覧が出力できること。		
46		利用者ごとに督促抑止の設定ができること。		
47		予約のあるものについてはチェックができること。		
48		督促はがきは、官製はがきが使用可能であること。		
49		利用者情報にメールアドレスを登録してある利用者に対して、督促メールを送付できること。		
50		督促はがき・封書の作成が行えること。文面は図書館にて出力時に変更できること。はがき・封書とも図書館指定の様式・出力方式で作成できること。		
51		督促後、図書館が指定した期間を経過しても返却がなされない場合、貸出停止措置を取ることができること。		
52	紛失資料がある利用者については、督促後の日数に加え、紛失手続からの経過日数を考慮して、貸出停止措置を取ることができること。			
53	相互貸借資料の借受管理	どこの館からどの資料を借りているか画面で表示できること。		
54		登録日等で抽出しリスト印刷やファイル出力ができること。		
55		予約リクエスト入力後に借用先が決まった場合に、借用先、借用依頼日等を後から入力できること。		
56	書誌の複写登録	書誌を複写する際に、ISBN、注記情報、内容情報を複写するか否かを選択できること。		
57	除籍日の管理	資料の状態を「除籍」に変更する場合、除籍日を管理できること。		
58	データ項目の自由設定	データ登録および表示画面では、当館に必要な項目だけを指定し、不要な項目は、表示させないこと。		
59	画面表示	所蔵情報、予約情報、書誌情報、内容情報、MARC情報、画像情報を確認できること。		

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項
7 発注・受入業務				
1	二重発注チェック	すでに所蔵発注しているかどうかをメッセージ表示し確認できること。		
2	発注情報登録	現在の所蔵・発注冊数を確認しながら、発注情報を登録できること。		
3		書誌情報のコピー機能があること。		
4	簡易発注	MARC番号もしくはISBNのバーコードを連続して読み込むことで発注データを作成できること。その際、予約冊数を確認可能なこと。		
5	発注時基本事項の自動設定	発注時、何冊にもまたがる以下のような共通項目は1度設定すると自動的に画面内にセットされること。 <ul style="list-style-type: none"> ・発注日付 ・購入業者 ・受入区分 ・購入部署 ・備消区分 ・予算年度 ・予算館 ・予算費目 		
6	発注情報の取消	発注情報の取消ができること。		
7		取消理由の入力が行えること。		
8	発注中の書誌資料情報更新	発注中の資料に対し、書誌情報やローカルデータなどの更新が行えること。		
9	予約	発注の資料に対し、予約処理が行えること。		
10	発注関連帳票の出力	発注日を指定して、発注一覧等の発注関連帳票を出力できること。納品、未納品の状況が確認可能なこと。		
11	発注短冊作成処理	発注短冊の作成ができること。		
12	受入処理	発注中の資料の受入処理が行えること。		
13		発注番号と資料番号だけを連続して入力することにより受け入れが可能なこと。		
14	受入MARCの登録	受入MARCの登録ができること。		
15	一括受入	発注情報一覧を表示し、受入を行えること。		
16		受入時、予約リクエストがあった場合、チェックができること。		
17	受入関連資料の出力	受入原簿等、各種受入関連リストを印刷できること。		
18		納品・未納品状況リストを印刷できること。		
8 利用者管理業務				
1	プライバシーの保護	利用者データの安全確保、プライバシー保護に関し、配慮されたシステムであること。		
2	登録機能	一般利用者と団体利用者について、情報の登録、更新、削除、再登録が行えること。		
3	利用者情報	以下のデータを登録、照会できること。 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者番号 ・利用者区分 ・利用者状態 ・登録年月日（当日の日付が自動設定されていること。） ・登録館名 ・住所（住所コードの他、地区コードも設定できること。旧住所も入力できること。） ・電話番号（2個以上） ・在勤、在学 ・保護者氏名（漢字・カナ） ・郵便番号（7桁） ・連絡メモ（文字数、個数に制限なく登録できること。） ・注記（文字数、個数に制限なく登録できること。） ・メールアドレス（2個以上） ・その他連絡先 ・パスワード ・督促抑止対象／非対象 ・督促記録（督促回数、督促年月日） ・最終更新日 ・紛失回数 ・カード再発行年月日 ・発行年月日 ・過去5年以上の利用実績 ・氏名（漢字・カナ） ・有効期限日 ・生年月日 ・最終貸出日 ・旧カード番号 ・仮カード番号 		
4		連絡メモ、注記の最終更新日、最終更新場所を記録できること。また画面で確認できること。		
5		登録した電話番号の中から連絡先を指定できること。		
6	パスワードの登録	パスワードを登録可能なこと。		
7		パスワードは英数字で設定できること。		
8		パスワードは参照できないように非表示にすることができること。		
9	再登録	再登録時は旧カードの情報（貸出・予約情報も含む。）を新しいカードに引継ぎ、旧カードは無効にすること。		
10		旧カード番号、紛失年月日等も管理でき、旧カード番号でも検索できること。		
11	二重登録チェック	氏名等で検索し、既に登録されているか確認できること。（簡易登録画面も含む。）		

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項
12	入力の簡易化	住所、性別、連絡メモなどは、コード化して登録できること。		
13		連絡メモがコード入力できること。また、コード内容を表示後、追加・変更できること。		
14	郵便番号連携	郵便番号を入力すると、ヘルプ画面で該当する住所コード一覧が参照できること。そこから一行選択することで、住所コード、地区コード、住所の自動入力が可能なこと。		
15	データ複写機能	利用者データを複写登録できること。		
16	西暦・和暦対応	生年月日の入力に際し、元号は、西暦・和暦どちらでも対応できること。		
17	利用者検索機能	利用者の検索は利用者氏名、利用者番号、生年月日、電話番号、住所、メールアドレスから行えること。		
18		以下の検索機能が活用できること。 ・中間一致検索 ・漢字検索		
19		旧利用者番号、仮カード番号からでも検索できること。		
20	検索結果一覧表示・印刷	検索でヒットした利用者を一覧表示できること。		
21		一覧の項目ごとの並び替え（ソート）ができること。		
22	利用者照会	督促の状況を利用者照会の画面に表示できること。		
23	貸出・予約照会	該当利用者の現在貸出中、予約中の資料をワンクリックで確認できること。		
24		貸出日や返却予定日が資料単位に表示されること。		
25		予約している資料については、現在の状況（図書館に戻ってきているかなど）も確認できること。また、回送先館を表示できること。		
26		必要に応じて、紛失処理、返却処理、予約解除ができること。		
27		予約受取待の予約を解除した場合に、他に返却待利用者が存在する時メッセージ表示されること。		
28		貸出予約照会の貸出情報に、予約の有無が表示されること。		
29	年次更新処理	利用者の年次貸出・予約・督促状況のシフト処理が行えること。		
30	利用者削除処理	ある一定期間利用していない利用者の削除処理が行えること。		
31	削除機能	登録日、最終貸出日、更新日が入力年数を経過し、かつ貸出、予約を行っていない利用者に対し、削除が可能なこと。また、除籍状態にするか、物理的に削除するか選択できること。		
32	メール送信機能	新着情報の案内および予約資料の到着情報を電子メールで送るためのメールアドレスが登録でき、かつ送付できること。		
33		利用者毎にメール発信履歴が参照できること。各種メール内容（督促・予約連絡等）とその発信日時が確認できること。		
34	利用者データの統合	複数の利用者カードを持つ利用者の統合機能があること。		
9 統計帳票・バッチ業務				
1	統計	登録者数統計、貸出統計（日別統計、月別統計、曜日別統計、年齢性別統計、地区別統計、時間別統計、団体統計等）、予約統計（日別統計、月別統計、年齢別、地区別統計等）、蔵書統計、返却統計等を印刷できること。		
2		帳票出力時、出力先の指定について、自動印刷と画面プレビューのどちらかを指定できること。		
3		CSVファイルの出力有無が選択可能なこと。CSVファイルを出力する場合、保存先、ファイル名称を任意に指定できること。		
4		ベストリーダ、予約ベストリストを印刷できること。		
5		タイトル単位の雑誌ベストリーダが出力可能なこと。		
6	帳票	統計、書誌登録（MARC登録等）、利用者登録、帳票、発注受入、督促がクライアントで実行できること。		
7		出力可能な帳票の一覧を提示すること。		
8		全ての帳票データをプレビュー、印刷、CSV出力可能なこと。		
9		抽出内容については、図書館にて帳票の追加を行うことを想定し、図書館業務に必要な基本項目は包含していること。		
10		データベースの管理データを抽出し、帳票が作成できること。		
11	ハンディターミナル業務	ハンディターミナルを用いて下記業務で収集を行ったデータについては、バッチ処理で該当データベースの更新が行えること。 ・貸出、返却 ・蔵書点検 ・蔵書管理（資料状態・資料情報変更）		
10 運用管理業務				
1	休館日設定	館ごとに休館日をあらかじめ画面より設定できること。（返却予定日にも自動的に反映されること。）		
2	巡回日設定	移動図書館向けの巡回日の設定を行えること。		

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項
3	配架区分自動設定	別置記号・請求記号をもとに自動的に配架区分が設定されること。		
4	相互貸借資料借受管理	資料借用先館別に借用資料を一覧表示が可能であること。		
5	管理メニュー	運用管理メニューはログインユーザの権限により、使用可否、表示可、パスワード要否を任意に設定可能であること。		
11 レファレンスシステム				
1	レファレンスシステム	レファレンスの事例登録が行えること。		
2		レファレンスの事例登録について、国立国会図書館レファレンス協同データベースに準拠した登録が行えること。		
3		登録したレファレンス事例は、編集、削除が可能なこと。		
12 一般利用者用検索端末（キーボード、タッチパネル）				
1	用途・条件	以下の目的で使用する。 館内に設置し、一般利用者向けの検索端末として使用する。		
2		やさしいインターフェースを有し、子供からお年寄りまで誰でも検索できること。		
3		キーボード、タッチパネルで使用できること。		
4		使い勝手を重視していること。		
5		業務用サーバのデータ更新時、同時更新が可能であること。		
6	操作性	子供からお年寄りまで操作することを前提に、わかりやすい画面表示になっていること。		
7		予約、利用者情報登録・更新、貸出・予約状況照会を行えること。		
8		検索区分（図書、雑誌、AV等）毎に予約不可を設定できること。		
9		貸出中の資料に対する同一利用者の予約を禁止できること。また、予約時にその旨を通知するメッセージを表示できること。		
10		予約中の資料に対する同一利用者の予約を禁止できること。また、予約時にその旨を通知するメッセージを表示できること。		
11		予約しようとする書誌に貸出可能な資料が存在する場合、確認メッセージを表示できること。		
12		受取希望館を選択可能なこと。		
13	クイックリターン機能	操作が分からなくなっても、どの画面からでも最初の画面にワンタッチで戻れること。		
14	オートリターン機能	一定時間放置すると、自動的に最初の画面に戻ること。		
15	資料検索	資料種別（図書・雑誌・AV等）または全資料より選択して検索できること。		
16		資料のある場所や現在の状態を確認できること。		
17		検索ヒット件数の上限値を設定できること。		
18		検索を中断できること。		
19		配架図（館内平面図）上に資料のある場所を表示できること。また、配架図の表示優先度を資料状態、配架区分により設定可能なこと。		
20		配架図（館内平面図）は図書館が行う配架変更に対応可能であること。		
21		特定の資料情報を利用者端末上に表示させない設定ができること。		
22		検索結果一覧の並び順を変更できること。		
23		詳細検索モードがあること。		
24		全文検索に対応していること。		
25	検索結果詳細表示に表示される「詳細情報」は、業務システムの検索結果詳細表示に表示される「詳細情報」とほぼ同じ内容であること。			
26	NDC分類検索	NDC分類検索ができること。		
27	ヘルプ機能	操作方法を画面で確認できること。		
28	情報提供機能	催し物一覧を表示できること。		
29		紹介コーナーで図書館から利用者へのお知らせとして、推薦図書の案内など、100項目程度を案内できること。		
30		紹介コーナーで新着資料、貸出ベスト、予約ベストを表示できること。		
31	図書館カレンダーの表示機能を有し、そこから催し物案内ができること。			
32	貸出・予約状況の確認機能	現在の本人の貸出・予約状況を確認できること。		
33		利用者番号、パスワード等で本人の確認を行い、他人の情報が参照できないこと。		
34		予約の解除ができること。		
35		出力条件は、各館ごとに設定できること。		
36		書誌資料照会情報をレシートに出力できること。		

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項
37	資料状態による表示 選択	検索結果を表示する時に、資料状態や取扱区分(禁帯、新着等)により、資料を表示する／しないを選択できること。		
38		表示する資料状態について、業務用とは異なる、利用者に分かり易い表現に変更できること。		
39	エディタ機能	資料紹介や催し物、利用案内等のデータを編集できること。		
40		推薦図書やベストリーダ案内等の登録は、資料番号を入力または読み取るだけでデータベースから書誌情報を取得できること。		
41		ヘルプの文章を自由に変更できること。		
42		配架図の編集と配架場所の編集を、図書館が簡単に行えること。		
13 ホームページ				
1	システム全体	ユーザインタフェースは、WebブラウザまたはWindowsプログラムとして標準的な作りであること。		
2		現在提供している情報および機能を継承して作成すること。 但し、現在のデータは図書館が作成したPDFファイルを除き提供できない。		
3		稼働後、図書館職員のメンテナンス性に配慮された作りであること。		
4		図書館職員がメンテナンスするためのツールが用意されていること。		
5		図書館職員がメンテナンスするための手順書が用意されていること。		
6		図書館職員向けにホームページメンテナンスについての操作研修を実施すること。		
7	コンテンツ作成機能	ページ作成／編集／削除が容易にできること。		
8		HTMLファイルのタイトルおよびメタタグの自動挿入／個別指定ができること。		
9		ページ作成により自動的にサイトマップへ反映できること。		
10		自動でパンくずリストが作成できること。		
11		プレビューによる確認ができること。(ページ生成後の容量の表示もできるとなお良い。)		
12		WYSIWYG／リッチテキストエディタによる編集ができること。		
13		PDF、WORD、Excel、動画ファイル、MIDIなどのファイルを登録できること。		
14		画像の編集 (ALT設定、リサイズ、差し替えなど) が容易にできること。		
15		画像など単体および複数ファイル一括アップロードができること。		
16		登録した情報を複製できること。		
17		デジカメなどで撮影された大きな画像でも、指定したサイズに自動でリサイズができること。		
18		マルチデバイス対応が1入力に対応できること。		
19	コンテンツ管理機能	コンテンツ全体管理ができること。		
20		テンプレートの世代管理ができること。(デザイン変更などによる世代管理ができること。)		
21		ファイル (アイテム) 管理ができること。		
22		カテゴリ管理ができること。(作成／編集／削除)		
23		フォルダ管理ができること。(作成／編集／削除)		
24		コンテンツごとにバージョン管理、ロールバックができること。		
25		プログラミングスキルが無くてもCMSテンプレートの作成・変更ができること。		
26	SEO対応	編集者がページ中の任意の場所にコンテンツを挿入することができること。		
27		タイトル、キーワード、デスクリプションを容易に設定できること。		
28		sitemap.xmlを自動生成できること。		
29		noindex、nofollowを容易に設定できること。		
30	配信機能	コンテンツの即時公開／非公開ができること。(スタティック含む。)		
31		コンテンツの日時指定公開／非公開ができること。(スタティック含む。)		
32		スタティックの再構築を自動で夜間処理 (cron、Daemon) できること。		
33	ユーザー管理機能	ユーザー登録ができること。(一括登録はCSVなどで可能なこと。)		
34		複数ユーザーをグループ管理できること。		
35	システム機能	ログイン認証ができること。		
36		ログが出力できること。		
37		データの一括置換ができること。		
38	セキュリティ機能	IDによる表示／機能制限ができること。		
39		ディレクトリ範囲指定の権限設定ができること。		

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項
40		編集範囲の制限ができること。		
41		ユーザーの操作履歴を管理できること。		
42	デバイス対応	スマホ、タブレットに対応する画面を容易に作成可能なこと。		
14 Web-OPAC				
1	検索用途・目的	他の図書館や非来館者がインターネットを介して使用する。		
2		全文検索が行えること。		
3		論理演算等の高度な検索機能を有すること。		
4		Webブラウザ方式とする。		
5		セキュリティに十分配慮されたシステムであること。		
6		インターネットに公開するWebサーバには利用者情報等の個人情報を持たせないよう業務サーバとデータベースをわけること。		
7		365日24時間運転が可能であること。		
8	システム全体	ユーザインタフェースは、WebブラウザまたはWindowsプログラムとして標準的な作りであること。		
9		画面遷移は必要最小限にし、検索結果を把握できること。		
10		利用者は、基幹業務等他の資源へのアクセスができないこと。		
11		パスワード、メールアドレス、予約連絡方法を利用者が修正できること。変更対象項目は任意に選択設定可能であること。		
12		予約、利用者情報登録・更新、貸出・予約状況照会を行えるか否かを設定できること。		
13		長期貸出中の資料(返却日が設定した日数を経過している場合)には予約できない様にできること。		
14	検索機能	全文検索が行えること。		
15		検索キー入力後、検索ボタン、並びにキーボードの「ENTER」キーを押下することで検索が行えること。		
16		検索キー項目は、メニューにより設定できること。		
17		主な検索キーについては、タイトル、著者等、出版者、分類番号、刊年、I S B N等、所蔵館、巻、号、通号、資料形態、請求記号、全項目とする。		
18		論理演算が行えること。(AND、OR)		
19		異表記・同義語による検索が行えること。		
20		完全一致検索が可能なこと。		
21		検索結果一覧画面ではヒット件数を表示すること。		
22		検索結果一覧画面で並び順を変更できること。検索結果一覧画面の初期表示時の並び順、および並び替え項目の指定が可能なこと。検索結果一覧に条件を追加し、絞込みできること。		
23		表示形式規則は、パラメタ等で変更が行えること。		
24		資料種別(図書・雑誌・AV等)または全資料より選択して検索できること。		
25		入力した検索キーのカンマ、スペース等を意識しなくても検索できること。		
26		入力した検索キーの半角、全角を意識しなくても検索できること。		
27		検索キー「ヴァ」と「バ」、「ヴィ」と「ビ」、「ヴ」と「ブ」、「ヴェ」と「ベ」、「ヴォ」と「ボ」について、どちらで入力しても検索できること。		
28		検索結果一覧及び詳細表示画面において、ヒット項目を強調表示可能なこと。		
29		詳細表示画面から、前後の資料を検索結果一覧に戻ることなく表示可能なこと。また、詳細表示画面から検索結果一覧に戻る場合、検索結果一覧の情報を保持していること。		
30	簡易検索	簡易検索機能があること。		
31	分類検索	NDC分類検索ができること。		
32	情報提供機能	図書館カレンダーを表示できること。		
33		情報提供するデータは容易に編集できること。		
34		画面にガイダンスを表示できること。また、ガイダンスについては編集できること。		
35	貸出・予約状況の確認機能	現在の本人の貸出・予約状況を確認できること。		
36		利用者番号、パスワード等で本人の確認を行い、他人の情報が参照できないこと。		
37		利用者認証について、SSL暗号化通信に対応していること。		
38	資料状態表示	検索した資料の状態が最新の状態で表示されること。		
39	予約依頼機能	利用者認証後、検索した資料に対する予約依頼の入力が行えること。		
40		予約解除ができること。		

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項
41	予約処理場所の出力	Web-OPACで予約された予約情報について、図書館業務システムの予約一覧等で見分けがつくこと。		
42	貸出延長依頼機能	利用者認証後、貸出延長依頼の入力が行えること。		
43	データベース構築・運用および保守	同義語については辞書を装備し、辞書に対し追加・修正が行えること。		
44		専用データベースの更新処理およびバックアップ処理を自動的に実行すること。		
45	新着案内・貸出ベスト・予約ベスト・おすすめ本表示	新着資料・新刊資料・貸出ベスト・予約ベスト・おすすめ本のリストが表示でき、一覧を選択することにより資料の詳細情報へ移り、資料の状態を確認、予約入力画面へ移ることができること。		
46		新着資料・新刊資料・貸出ベスト・予約ベストはOPACのデータ作成時と同時に作成されること。		
47	レファレンス	レファレンスの受付機能があること。		
48		氏名、ふりがな、郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス、質問内容、出典、回答方法を入力する項目があること。		
49		氏名、ふりがな、郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、メールアドレスの初期表示時には、利用者マスタの情報を初期設定すること。		
50		各項目の表示有無は、図書館のシステム管理者が選択できること。		
51	リクエスト	リクエスト受付機能があること。		
52		入力必須項目は任意に設定可能なこと。		
53		氏名、ふりがな、郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス、書名、責任表示、出版者、出版年、ISBN、理由、回答方法の項目があること。		
54		氏名、ふりがな、郵便番号、住所、電話番号、メールアドレスの初期表示時には、利用者マスタの情報を初期設定すること。		
55		各項目の表示有無は、図書館のシステム管理者が自由選択できること。		
56	お知らせエディタ	トップ画面のお知らせ入力を編集可能なこと。		
57		表示開始日、表示終了日が入力でき、表示開始日に自動的に表示され、表示終了日に表示が消えること。		
58	OPACデータ抽出	OPAC目録用の書誌抽出機能があり、自動的に抽出することができること。		
59		OPACに表示するデータと表示しないデータを選別できること。		
60	カレンダー表示	休館日を明示したカレンダーを表示可能なこと。また、館によってはカレンダーを非表示にできること。		
61	雑誌一覧の表示	図書館が購読している雑誌の一覧を表示する機能があること。		
62		表示された雑誌一覧から資料の詳細画面に遷移が可能なこと。		
63		データ更新は自動的に行われること。		
64	アクセシビリティへの配慮	Web-OPAC画面上にアクセシビリティを向上するツールを表示できること。Internet Explorer8以上に対応していること。		
65	共通機能	同一のコントロールパネル上で表示サイズの変更、画面カラーの変更、音声読み上げ、るび振りが行えること。		
66		マウス操作の困難の人でも使用できるよう、キーボードを利用して操作を行えること。		
67	アクセシビリティへの配慮 画面表示サイズ変更	視覚障害の人が不自由なくホームページ（HTML）を閲覧できるように、文字だけでなく画像を含めてページごと表示サイズの変更（拡大、縮小）が行えること。		
68	アクセシビリティへの配慮 画面カラー変更	視覚障害の人がホームページ（HTML）を閲覧しやすいように、画面カラーの変更操作を行えること。		
69		視覚障害の人が目で受けとる光の量を調整できないことを想定し、ホームページ（HTML）の明るさを抑える為に、画面カラーの変更で白黒表示および白黒反転表示ができること。		
70		視覚障害の人が色の違い（コントラスト）を区別しやすくなるよう、色調反転表示ができること。		
71		ホームページの内容が見やすいように、文字や画像の色について、白黒表示、白黒反転表示、色の反転表示が可能なこと。		
72		画面カラーの変更で、簡単に色を元に戻すことができること。		
73		画面カラーの変更操作はボタン等を利用して簡単に行えるものであること。		
74		画面カラーの変更操作は変更操作専用のコントロールパネル上で行えるものであること。		
75	アクセシビリティへの配慮 音声読み上げ	音声読み上げができること。		
76	読書推進サービス機能	OPACで検索した資料を、利用者が読書記録やこれから読みたい本のメモ等として活用できるように、自由にリストに記録できること。		

機能仕様書兼回答書

項番	項目	機能概要	実現可否	補足事項
15 BM業務				
1	BM業務	2台以上のPCを接続して、業務を行えること。		
2		以下の業務が使用可能であること。 <ul style="list-style-type: none"> ・貸出業務／貸出延長業務／団体貸出業務 ・返却業務／利用者別返却業務 ・検索業務 ・予約照会業務 ・利用者業務：照会／更新／新規登録 		
3		使用可能な各業務は、館内業務で使用する機能と同一の機能を有すること。		
4		画面構成は館内業務と同一であること。		
5		館内のサーバからBM機へのデータダウンロードは簡易な手段で行えること。		
6		図書館に戻った後、館内のサーバへのデータアップロードは簡易な手段で行えること。		
7		ステーション単位の処理統計を取得可能であること。		
8		Web-OPACの予約において、受取館にBMを指定した場合、ステーションを登録可能であること。		